

# 看護学概論

単位数（時間数）：2 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田幸子

科目担当者（職位・氏名）：

---

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢  
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：43

## ■ 授業概要

看護を学ぶ出発点として必要な基礎的知識・技術、看護者としての態度を習得する。看護の歴史の変遷から専門職として発展過程を概説する。この発展過程をふまえて現代における、看護の目的と役割機能、看護における「人間」「健康」「環境」「社会」の各概念を意味づけし、これらの関係性を考察する。また、社会の中での看護実践を支える法と倫理、保健医療福祉チームの概念とその意義について考える。これらの学習を通して、看護学に対する関心を高め、看護実践の基盤となる個々の看護観を育む。

## ■ 到達目標

1. 看護の歴史の変遷から看護職の確立について説明できる。
2. 看護の目的と役割・機能について説明できる。
3. 看護の主要概念（人間、健康、環境、看護）を理解し、相互の関連性を説明できる。
4. 看護を支える我が国の法的及び倫理的根拠を理解し、説明できる。
5. 保健医療福祉活動とチーム連携・協働の意義、看護の役割について説明できる。
6. 今後の看護の展望と課題を考えることができる。

## ■ 教育内容

基礎看護学

## ■ キーワード

看護、人間、健康、環境、看護の独自性、倫理観

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	ガイダンス	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項	土田
	看護への導入	「看護という言葉のもつイメージ」についてグループディスカッション (講義、討議)	
2	看護職の発生と歴史の変遷①	職業としての看護活動の原点について ・ ナイチンゲールの生きた社会背景と職業としての確立について理解する。 ・ アメリカにおける看護学の発展 (講義)	土田
3	看護職の発生と歴史の変遷②	日本における看護職が専門職として確立するまでの歴史の変遷と特徴 ・ 看護職確立前の看護の歴史 ・ 明治・大正期の職業的確立と社会背景 ・ 戦直後の看護職の改革 ・ 戦後から発展過程 ・ 専門職としての確立 (講義)	土田
4	看護とは	ナイチンゲールとヘンダーソンの看護の定義から、看護の原点をまとめ、看護とは何かを考える。 ・ ナイチンゲールの看護の定義 ・ ヘンダーソンの看護の定義 ・ 日本看護協会の看護の定義 (講義)	土田
5	看護の目的・役割機能 看護の対象・活動の場	既習及び事前学習をもとに、自分たちの言葉で「看護の目的、役割機能、看護の対象・活動の場」について討議する。 (グループワーク)	土田
6	看護の目的・役割機能 看護の対象と活動の場	グループでの学習成果の発表とまとめ 全グループの発表をもとに、看護の目的・役割機能、対象、活動の場をまとめる。 (発表、全体討議)	土田
7	人間の特性と看護	看護の対象である人間について ・ 基本的欲求の概念 ・ 成長・発達原則 ・ 身体的・心理社会的発達と課題の特徴 ・ 適応の概念 (講義)	土田

8	健康とウェルネス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. WHO の健康の定義</li> <li>2. 健康の考え方</li> <li>3. 健康の増進（ヘルスプロモーション）</li> <li>4. 健康に影響を与える要因 (講義)</li> </ol>	土田
9	人間の生活と環境の関わり①	<p>ナイチンゲール『看護覚え書き』で、ナイチンゲールは、患者の生命力の消耗を最小にするために、看護のなすべきこと13の項目を述べている。</p> <p>現代において私たちが実践するには、どのようにすべきか（実践方法）について (グループワーク)</p>	土田
10	人間の生活と環境の関わり②	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間と環境の関係について 環境の概念と環境の分類, 人間と環境の相互関係</li> <li>2. 人間にとっての健康と環境の関わりについて 健康の定義とその変遷, 健康の成立要因</li> <li>3. 健康生活と看護 (講義)</li> </ol>	土田
11	看護の実践とは	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の4つの概念（人間・健康・環境・看護）と看護実践の関係性</li> <li>2. 看護の基本技術（コミュニケーション、安全・安楽、観察、看護過程）と看護実践</li> <li>3. 看護の目的と実践について各自指定用紙にまとめる。 (講義)</li> </ol>	土田
12	看護を支える法的側面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法と看護職の社会的責任</li> <li>・保健師助産師看護師法における看護職の社会的責任・役割機能</li> <li>・医療安全と医療事故における法的責任、看護実践に影響を及ぼす法律 (講義)</li> </ul>	土田
13	看護における倫理①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護者の倫理的態度を規定する「看護者の倫理綱領」をもとに看護実践の倫理的規準について考える</li> <li>2. 患者の権利「リスボン宣言」をもとに、看護職としての対象者の人権擁護について考える。 (講義)</li> </ol>	土田
14	看護における倫理②	<p>看護実践における倫理的課題への対応について事例をもとに考える (演習)</p>	土田

15	<p>保健医療福祉におけるチーム活動と看護の展開 これからの看護</p>	<p>保健医療福祉活動と看護の役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健医療福祉活動の概念</li> <li>・ 現代社会の健康課題と保健医療福祉活動の特徴</li> </ul> <p>保健医療福祉のチーム連携のあり方と看護職の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームワークの概念と意義</li> <li>・ 医療機関内・地域におけるチームの多様化と連携の特徴</li> <li>・ チーム連携・協働のあり方と看護職の役割</li> <li>・ 保健医療福祉活動の現代的課題と看護</li> </ul> <p style="text-align: right;">(講義、全体討議)</p> <p>課題：社会における看護活動の広がりと今後の看護の展望と課題を考える</p>	土田
----	--	--	----

## ■ 履修条件

特になし

## ■ 成績評価方法

期末試験 70%、課題レポート、10%グループワーク 20%：

課題レポートは、提出状況、内容の目標到達状況により評価する。

グループワークは、貢献度、発表態度、発表資料の内容、討論への参加度により評価する。

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・提出された課題のフィードバックは、コメントを付して返却を行う。
- ・発表態度や発表資料内容は、発表終了後に全体もしくはグループごとにフィードバックする。
- ・希望者に対して、定期試験のフィードバックを行う。希望者は、結果発表日から 2 週間以内に、科目責任者にアポイントをとること。

## ■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング グラフィカ』メディカ出版 基礎看護学 ① 看護学概論
- ・フローレンス・ナイチンゲール著（2023）『看護覚え書—看護であること看護でないこと—第 8 版』現代社

## ■ 参考書・参考資料等

- ・ヴァージニア・ヘンダーソン著（2016）『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会  
必要に応じて提示する。

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修それぞれ 90 分程度（計 180 分程度）必要とする。
- ・事前学修：授業計画に示された内容に即して教科書該当箇所を通読・図書館等の文献を活用し、事前学修をする。授業内で行うグループワーク時に必要な課題内容についてまとめる。
- ・事後学修：配布資料や教科書の該当部分を振り返り学びを整理する。特に専門用語については、教科書や看護学辞典などを参考にして自分の言葉で説明できるように整理する。講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある。

## ■ 担当教員からのメッセージ

看護学への導入となる科目です。授業は、講義のみならず、課題図書を読む、グループワークを行います。授業では学修した内容を他者に伝えることや、他者の意見を聴くこと、レポートにまとめることなどを体験します。特にグループワークでは、学修した内容を整理して自分の意見を述べることを求められます。そのためにも事前事後学修が大切となります。

看護に対する視野を広げられるよう日常のささやかな変化にも気づける人になってください。看護・看護学に対する興味・関心が深まり、次の学修への動機づけとなることを期待します。

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 11、 [tsuchida@iwate-uohms.ac.jp](mailto:tsuchida@iwate-uohms.ac.jp)、事前に連絡して訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

## ■ 担当教員の実務経験の有無

有

## ■ 担当教員の実務経験

看護師

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

## ■ 実務経験を活かした教育内容

病院での看護師の経験を活かして、看護の基礎となる看護の概念や看護の機能と役割および看護の対象である人間の理解等の講義を行います。